

イスラーム・ジェンダー学科研 全体集会
公開シンポジウム

共生とマイノリティ



2016年度に始まったIG科研は今年で3年目を迎えます。三回目となる全体集会では、共生と、そこで浮上するマイノリティの問題という切り口から、イスラーム・ジェンダーを考えていきます。

共生とマイノリティをめぐる多様なあり方を、諸社会の具体的な事例から明らかにする第一部と、日本の教育現場が直面する課題やそれを乗り越えるための取り組みについて議論する第二部を通じて、私たちが目指す未来のあり方とは何かを皆で考えてみたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

2018年6月23日(土) 13:00-17:45
東京大学東洋文化研究所 3階 大会議室

予約
不要

プログラム

13:00 趣旨説明

13:10 第一部：諸社会の状況を知る

モハメド・オマル・アスディン (学習院大学法学部政治学科)

細谷幸子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

田中好子 (パレスチナ子どものキャンペーン)

14:40 休憩 (20分)

15:00 第二部：日本の教育現場を考える

智野豊彦 (横浜商業高校)

岸田由美 (金沢大学理工学域留学生教育研究室)

松田雄二 (東京大学大学院工学研究科建築学専攻)

16:30 休憩 (20分)

16:50 コメント・全体討論

17:40 おわりの言葉

17:45 閉会

当日、託児所を開設する予定です。
ご利用予定の方は6月9日までに
事務局にお問い合わせください。

お問い合わせ：islam_gender@ioc.u-tokyo.ac.jp

主催：日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (A) 「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」 <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~nagasawa/>

写真：シンガポールのアラブ・ストリート (撮影：後藤絵美)



2018年度イスラーム・ジェンダー学科研全体集会・公開シンポジウム 『共生とマイノリティ』趣旨文

人と一緒に生きるのがますます難しい時代になった。

子どもの頃から仲良しだった友だちが、何々人だとか、何々派だとかいうことで互いに口もきかなくなる。突然、戦争が天から降って来て、皆がバラバラになって憎しみ合い、故郷を追われて難民となる。

こうした地域の悲劇を対岸の火事と思っている日本社会も同じ時代の波の中にある。野太い声や金切り声のヘイトスピーチに身を縮める人たちもいれば、無神経な言葉や無遠慮な視線に身をすくめ、唇を噛みしめる人たちがいる。「生きづらさ」あるいは「生き苦しさ」を感じる人の数が増えている。もちろん、この「辛さ」や「苦しみ」の中身は人によって違う。しかし、それらがある特定の人たちに集中していることは確かである。

その一方で、このような時代であるからこそ、深刻な問題から目をそらさず、フェイクニュースや欺瞞に騙されず、卑劣な脅しにひるまないで、新しいつながりを築こうという人たちがいる。そのことを私たちは信じたい。

昨年度の「イスラモフォビアの時代とジェンダー」に続いて、今年度のIG科研全体集会・公開シンポジウムは「共生とマイノリティ」をタイトルに選んだ。昨年度のキーワードは「差別」であったが、今回はイスラームとジェンダーの視点からさらにこの問題を掘り下げて考えてみたい。とくに、人と人とのつながりのあり方を模索する具体的な事例の報告を通じ、今後の展望を考える機会としたい。

科研代表 長沢栄治

子連れ研究会参加の通常化に向けた取り組み

「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的・総合的研究」（IG科研）では、科研の拠点である東京大学東洋文化研究所で開催の研究会に関しましては子連れ研究会参加の通常化について努力していきたいと考えております。

これは、研究会実施会議室内に子ども同伴で参加することを特別な理由がない限り制限しない取り組みです。

具体的には、同伴したお子さんが発する声や音を当然のこととして容認し、それに合わせて研究会進行に配慮することを心がけたいと思います。

また、同じ部屋にすることが難しいと保護者が判断した場合に使用できる別室を用意します（要事前連絡）。

今後の研究会で子連れ参加をご希望の方は、

IG科研事務局 islam_gender@ioc.u-tokyo.ac.jp までご連絡ください。

http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~nagasawa/about/joinus_withyourchildren.html